

【日 時】 平成 26 年 2 月 18 日

【訪問先】 釜利谷小学校 荒木葉子校長

【概 要】 児童数 433 名 学級数 13 学級 特別支援学級 3 学級 教員 24 名 職員 4 名

【視察報告】

1. 校長先生のモットー・教育目標

『自分の意見を持って、自分の言葉で話せる子』に育てていきたい。教育目標は、『「たのしい わたしの学校」ひびきあい ささえあい たかめあい』

2. 英語・国際教育の取り組み

外国につながる生徒は多く在籍しているが日本語での授業に支障はなく、特別支援は必要ない。AET による週 2 回程の授業が行われている。外国の小学校との交流も検討している。英語を当たり前を受け入れ、コミュニケーションツールとして活用できる人材になるための第一歩が小学校なので、まずはネイティブの英語に聞き慣れることから。

3. 地域のボランティアの協力

今年度初めて地域コーディネーターを設置した。地域の方が読み聞かせや昔の話を子供たちに聞かせるなど、とても協力的でしっかりと活動として根付いている。

4. 地域との防災の取り組み

地域の消防団が小学校に来て放水体験を実施するなど防災に対して地域が協力的である。

子供たちも 3.11 以降危機感を持って活動している様子。しかし、子供と防災拠点の接点が少ないことが、課題であるようだ。

5. 道徳教育や郷土愛を育む取り組み

3 年生以上のクラス代表が集まりいじめなどについて話し合う、『にこにこ人権会議』は生徒会の中で 10 年以上続いている。本当のことを本気で話して話して意識を高めあおう。相手のことを良く知り良いところをたくさん見つけよう。そういった意識が高まれば、道徳的にも良い効果をもたらすはず。

6. 体力強化やクラブ活動の取り組み

月に 2 回、昼休みを長く取り、教師も一緒に参加し外で遊ぶ時間を増やし、運動を促している。また、クラスごとに大縄跳びの伸び幅を競い合うなど、体育以外のカルキュラムを通して運動する機会を増やしている。

【所 感】

積極性を持った子供に育てるという教育目標が、様々な活動から多く見られた。校長の話からは、地域との心地よい関わりも持ち、組織力を高めていきたいという思いが強く感じられた。保護者との距離を縮めやすい女性校長という特徴をうまく活かして学校経営を行っているように感じた。



地域ボランティアの取り組み



消防団による放水体験の様子

